取り組み紹介書

施設 宝塚せいれいの里	職場　ケアサービス課　　氏名 （団体の場合は団体名　　）

【タイトル】業務仕分けで介護職の専門性向上と高齢者就労の促進

【課題】

福祉施設の介護職は、新卒・中途共に厳しい状況が続いている。サービスの質は落とさずに、介護職員が専門性を発揮できる人員体制の構築が必要となっている。

【目的】

福祉施設における介護職場は、食事・入浴・排泄介助といった直接介護業務の他、利用者の日常生活にかかわる非介護業務も多く存在し、様々な業務を行っている。介護業務と非介護業務の仕分けを行い、介護補助者を導入する事で、介護職の専門性（利用者の変化に気付く等）を向上させる。また、介護補助者を採用するにあたっては、高齢者の就労機会を増やす取り組みとした。

【方法】

日常のルーティン業務を24時間シートに仕分けを行い、非介護業務を抽出。抽出された非介護業務を、業務全体の中で支障のない範囲の集約を行うなど、介護補助者向けのマニュアル等の整備を行った。

介護補助者の確保にあたっては、宝塚市が推進する「エイジフレンドリーシティ宝塚・高齢者生きがい就労部会」と協働。メンバーとして参加し、トライヤル就労の提案を行った。2020年3月と7月に市主催のセミナーを2回開催・参加した。

【結果・効果】

セミナーは、第1回目は試行会として、事業所は宝塚せいれいの里のみが参加し、14名がトライヤル就労を希望、そのうち11名が就労を継続。第2回目は、聖隷4事業所、他法人4事業所が参加し、セミナー出席者は100名を超え、宝塚せいれいの里では21名のトライヤル就労から14名が就労継続となり、介護補助者の人員確保が行えた。高齢者の就労という観点から、一人あたり1日2時間・週2日の短時間とし、無理なく長く働ける配慮を行うと共に、人数を多く確保する事で、職場が必要とする時間帯に配置を行った。

非介護業務は清掃だけでなく、食事や入浴の介護業務前後の準備・片付けなども行う事で、介護職員の業務見直しが進み、利用者にかかわる時間を増やす事が出来た。また、宝塚せいれいの里3施設は、全てが個室となっている事から、居室内で介護を行う事が多いため、フロアに介護補助者がいる事で、何かあれば呼び出して貰えるなど、精神的なゆとりも生み出している。

導入前5月と導入後12月の実績として、常勤介護職の超過勤務325時間・手当額49万円の削減に対して、介護補助者の勤務時間は560時間・給与50万円であり、人件費増は行わず、業務に係る労働時間を増やす事も出来ている。今回、介護業務の見直しと高齢者就労の二つを組み合わせる事で、介護職場の業務改善を大きく図る事が出来た。